

リタリ因テ陸軍省ヨリ申シ来レル人名九ノ如シ

参謀本部

陸軍歩兵少佐

野田時敏

全

小島政利

全

高井敬侯

全

比志島義輝

全

平賀國八

全

矢上義芳

陸軍歩兵大尉

益満邦分

全

浅田信興

陸軍歩兵中尉

磯林真三

全 砲兵中尉

草間時雄

朝鮮事件

本月二十三日朝鮮國ニ於テ暴徒蜂起シ我公使館ヲ襲撃セリ因テ在長崎島歳丁上野方水野大尉ヨリ曾我本部次長宛ニテ電報来ルカ、如シ

本月二十三日午後五時逆徒數百人矢石銃丸ヲ飛ハシ下意ニ起リ公使館ヲ襲撃火ヲ放テ燒キ立テタリ尽力防禦シ七時間ヲ経タレトモ政府ノ援兵来ラス午後十二時一方ヲ切破リ王宮ニ至ラントスレモ城門開カス已レヲ得ス仁川府ニ立退キ休息スル中同行ノ兵亦不意ニ起リ襲撃シ死傷若干人漸ク切り抜ケ清物浦ヨリ船ニ乗リ二十六日南陽沖ニテ英吉利船ニ達シ貝助ヲ得テ只今長崎ヘ到着セリ右二十三日逆徒王宮及ビ関台鍋関讓鍋ノ邸ヲモ襲ヘリト聞ク堀本中尉語學生池田平

之進因内格生死詳カラス下官及松岡中尉千原
軍曹武田是太郎與事死房公使近藤書記官皆與事
委細花房公使ヨリ外務卿へ電報下官船便次第歸
京委細ヲ面陳ス可シ釜山海津中尉、南後、事情
探知ス、キ旨申遣ス可シ

又今日次ニ長崎死房公使ヨリ井上外務大臣宛
タル電報外務省ヨリ回送

本月二十三日午後五時激徒數百人不意ニ起リ
公使館ヲ襲撃シ矢石銃丸ヲ飛ハレ火ヲ放テ燒キ
立テテ尽力防禦セ七時間ヲ終リレ此政府ノ援兵未
ラス一方ヲ切リ閣キ王宮ニ到ラントスレ此城門
閉カス已レヲ得ス仁川府ハ立テ退キ休息スル内
同府、兵又不意ニ起リニ襲撃シ巡查二名即死三

名手員外ニモ死傷アリ漸々切接ケ清物浦ヨリ船
ニ乗リニヤ大日南陽沖ニ至矣吉利測量船フライ
ンガフビスニ出合ヒ丁寧ナル板ラ度ケ手員近モ
魚事只今長崎、到着セリ右二十三日ハ激徒王宮
及関台鍋関鑛鍋、家ヲモ龍ヘリト聞コエ殊ニ仁
川、事モアレハ釜山元山モ油断シカタク保護船
磐城艦今元山ニアリ外一艘直ニ釜山ハ遣ハサレ
保護房京城員後、模標國王至ニ政府、変化安危
如何ヲ聞合セラレタリ京城向後、處分ニハ充分
ノ護衛艦護衛兵ナリテハ叶ハス進退御指揮ヲ待
ツ近前書記官水野大尉外二十餘人長崎歸着堀本
中尉外八名生死分カラス

右、電報ニ接シ三好本部長代理ハ朝鮮國京城ニ於

ニ暴徒蜂起シ我公使館ヲ襲撃死傷者アリ公使以下
長崎迄引揚ケタル旨電報アリ右ニ片歸京アリタリ
ト北海道巡回先ナル曾我本部次長ニ郵送シ且ツ歩
兵少佐松山直矢工兵大尉瀬戸口重雄砲兵中尉伊藤
祐義歩兵中尉磯林真三今福島安正今菊地節藏、六
名ニ朝鮮派出シ余令ニ仍テ松山少佐ニ仁川着、上
事情報告トシ尉官一名帰朝局致旨ヲ達ス松山福
島、兩名ハ御用有之清國ハ被差遣旨達リ相成居ニ
處今般朝鮮國ハ被差遣マニ付右御用済、上出張可
致旨達セラレ右大名ハ本日出航、軍艦ニテ出立シ
タリ

七月三十一日高島監軍部長ハ朝鮮國派出、任命アリ
本部ヨリ堀江大佐比志島少佐、二名隨行被仰付

仍三好本部長心得ハ尤、御沙汰書、高島西部監
軍部長ニ移牒ス

在朝鮮國日本公使館、同國逆徒暴動、事件為該
刊辦理公使花房義質同國、被害遭害ニ付為護衛
小倉屯在步兵、内一大隊出張可為致尤一中隊ハ
公使同船乗組貝池三中隊出張、義ハ可待後命旨
御沙汰事

八月二日又尤、御沙汰アリ三好本部長心得ハ之ヲ
高島監軍部長心得ニ移牒ス

辦理公使花房義質為護衛出張、残ハ三中隊、内
一中隊先ニ出張御沙汰相成、一中隊ト共ニ出張
可為致旨御沙汰事

越ニ五日在神戸井上外務卿ヨリ尤、電報到来、是

ニ於テ朝鮮變亂ノ内容、概況ヲ知悉スルヲ得タリ
花房ヨリ尤、報知アリ磐城艦歸ル京城、換掃ハ
堀本岡内、池田、黒澤及三名、調査死ス大院君王宮
ニ闖入リ皇太后及皇太子、妃ヲ鳩殺ス李最應金輔
鉉、閔讓錫、閔台錫尹雄烈及見他殺カル大院君政權
ヲ握リ東萊ガイアンドウニ命ジテ右ノ事ヲ釜山
ノ我領事館ニ報知セシム因テ府伯ハ親ニ之ヲ通
知セリ乃々今回ノ事件ハ元來内部ノ騷擾ヨリ起
リ見結果遂ニ公使館ニ波及シ兵隊皆蜂起セルガ
故ニ保護ヲ與フル事ヲ得カリレハ甚ダ遺憾トス
ル所ナリ云々國王ハ安全ナリトノヲナリ磐城艦
ノ進退ニ付テハ御指令ヲ待ツ

今日清國公使館附梶山少佐ハ曹我本部次長ヨリ尤

ノ電報ヲ奏セリ

朝鮮ノ事ニ付支那政府ト李鴻章ハ自ラ其屬國ヲ
リト稱スル關係ヲ明カニセシ爲メ使節又ハ軍隊
ヲ發スルヲアルヘシ普魯斯國亞米利加ノ公使等
ニ交際シテ十分ニ探偵報知セヨ

八月七日山縣陸軍中將ハ參謀本部御用取極大山陸
軍少將ハ同御用取被仰付旨御沙汰アリテ蓋シ朝
鮮ニ事アルニヨル

八月九日山縣本部長御用取極ハ東京鎮台ヨリ騎兵
一十隊輜重兵一十隊及輸卒憲兵隊ノ内卒四十名若
干ノ士官下士ヲ附屬シ福岡地方ニ出張セリメ又能
本鎮台諸兵ノ内ヲ以テ福岡地方ニ行軍セリメ之レ
ト合シテ混成旅團ヲ編成シテ國司少將ノ指揮ヲ受

ケレハル等然ニ先裁ヲ經テ高島少將、報知次第朝鮮ニ出張セシムルヲ準備シ、爲ニ其報ヲ待テリ同十日曾我本部次長ヨリ九ノ二電ヲ國司少將及ヒ淺田大尉ニ發セリ

其量出征旅團ニ編制ニ上ハ淺田大尉ヲ參謀トスルノ見込ナリ

熊本鎮呂出征旅團編制、上ハ貴官ヲ參謀トナス見込ナリ

八月十六日癸朝鮮、暴徒ニ関スル觀察、情況在漢城ニ於ル堀江大佐秋山少佐ヨリ山縣本部長取扱ニ當リ奏スル詳報来ル尤ノ如シ

本月八日午前第七時鎮江(全羅忠清兩道、境)沖ニ於テ英船飛魚號ニ会シ稍見後、事ヲ聞知スルヲ得ナリ大畧

加九

一 飛魚號仁川港ニ着スルヤ清物浦追傍、土民等
日本ノ軍艦手ト疑ヒ逃避シテ一人、留マハ者
與リレト云フ

一 仁川府使ハ去ル四日飛魚號ニ來談ス、キ約束
ナリレニ翌朝ニ至リ談使ハ急病歿死セリトノ
報アリ原因分明ナラスト云フ土人、言ニ依レ
ハ毒殺セリレト云フ或ハ信ナラヒカ

一 被害者ハ皆鄭重ニ埋葬セリト云フ
被害者ハ堀本中尉
以下總テ十三人ナリ

一 大院君、言ニ予ハ從來頑固虜ヲ以テ世ニ處セ
ラレシモ今ヨリ大ニ覺悟シ國体ヲビテ尚一層
ノ開化ニ進歩セリメ日本ト、交際モ益親密ナ
ラント希望スト謂フト云フ

一彼政府ヨリ我政府ニ送りし書來最早御覽済ト
ハ存候得共尚訳レテ以テ在ニ記ス

謹テ茲ニ照会ス竊ニ念フ貴國ト弊邦トハ修睦
久レ已ニ三百年トス近口開港通商ニ依テ往來
更聘モ亦旦大七年ト為リ慶賀哀慰モ間然アル
與ニ技藝學習其妙ヲ尽リシハ自ラ敦好ヲ幸ト
レ共ニ安樂ヲ亨リ而レテ弊邦ノ軍民尚舊習ニ
慣レ少見多怪貴國人ノ來ル毎ニ輒々疑懼ヲ懷
キ種々辯詰ス滋弊非常ナリ此則貴朝廷諒ニハ
ス洞察スル素ヨリ自ラ意ツサリキ本月初九日
(我七月)廿三日)弊邦ノ兵民始メテ小事ヨリ忽焉肆怒千
唱萬應シテ蟻集蜂起ト變頃刻ニ出テ人敢テ格
スル莫ク屋舎ヲ毀破シ人命ヲ戕害シ猝ニ教場

ニ入り教師ヲ干犯ス防リモ防ニ勝ヘス三人殺
サル而路傍ニ僵ル、又四人タリ継テ清水館ヲ
劫レ出ニ乗リ墮突レ風ニ因ニ火ヲ放ツ貴國人
砲ヲ放テ劔ヲ揮ヒ我人ヲ殺死スル殆ト教十人
ニ過リ、豈但弊邦之不幸抑亦 貴國之不幸ナリ
與知、軍民自ラ解散セス初十日我大臣ヲ知害
レ我宮闕ニ槍入レ承突咆哮君父ヲ驚動シ王妃
昇遐シ宰臣ニ三人執ヘ被レテ殺カル此千古無
キ所、大變ナリ花房公使ノ如キハ機ヲ見避テ
圖リ清物浦ニ至リ船ヲ駛セ輪ヲ鼓ス未ク時日
之間已ニ貴國ニ抵ルヤ否ヲ知ラズ伊ノ時兵民
追テ仁川ニ及ビ路上殺ス所ノ者大人ト爲ス並
ニ留守被殺者ト具ニ厚瘞ヲ爲シ標ヲ豎シ明白

ニ自ラ底リ考驗スルヲ俟ツ容リ誣ハサル也
場駭機鎮安ヲ重シト爲ス幸ニ我國太公威信素
ヨリ洽々寬嚴互ニ用ヘ親ウ鋒鏑之間ヲ冒シ分
義ヲ曉諭ス威戢セラル無ク退散ス裕紳耆幼一
時ニヨリ恐ル、魚レ此實ニ弊邦宗社生靈ノ福
也茲ヨリ以還凡ソ申約ニ在ル者彼是照應永ク
舊好ヲ締ビ供ニ共ニ遵守セリ則不幸ニ由テ大
幸ニ歸スト謂フハ理想維貴朝廷ニ決リテ庸ニ
過語ト爲サ、ルベキ也此頌台安不佞

本月九日仁川港着後ノ景况尤、加レ

九日午後第六時三十分仁川港月尾島ノ南邊ニ海
里沖ニ碇泊ス

十日午前第八時海兵ヲ率ヒ仁禮海軍少將迄蘇鎮

事及小官等濟物浦ニ上陸仁川府吏等海岸ニ出迎
仁川府使ハ昨日新ニ任榮鎬任セウレシ由ナレ共
未夕赴任セズ目下富平府使ノ兼撰スル所ナル故
ニ談使濟物ニ来会ス談列ノ末仁川府ニ呈リ死体
ヲ點檢スルニ棺槨ハ寢棺ニシテ稍鄭重ニ作爲ス
ト雖モ死体ハ熟シモ繩縛ノ供投入セシ者ナリ故
ニ領事ヨリ其扱ノ非ナルヲ譴ム

一暴徒ノ原因種々アリト雖モ軍糧支給不當ヨリ
シテ事ノ茲ニ及ビシト云フ説確説ナルニ似テ
リ何者ハ特ニ宮中ニ迫リ閑談鎬ヲ殺害セシハ
該氏軍糧ノ事ヲ總轄シアリシツ以テ也

暴徒ニ死セシ中宮及大臣等尤ノ如シ

閔王后

(高階ヨリ落下シテ身避カレシト云ヒ又
病死トモ又毒殺ト云ヒ未夕信ヲ得ズ)

李最應

(大院君、実兄ニシテ高老ノ人ナル故驛接
、降狼狽ニテ同ジク高階ヨリテ洛死スト云フ)

閔昌植 参判

金輔鉉 京畿監察使

一十日午後第九時三十分支那軍艦三艘入港ノ名

弭加尤

楊威踞

起勇踞

威遠踞

右ハ北洋水師提督丁汝昌管帶レ又通呂候補馬

建忠之ニ乗込海軍中將、格ヲ以テ朝鮮ニ係ル

一艇、事ヲ掌ルト云フ

一十一日午後第六時三十分日進鑑及品川丸入港

ス

本日仁川府使任梁錫直ニ支那軍艦ニ来訪セ

シト雖モ我軍艦ニ来ラサルノミナラズ赴任ノ

通知モ之ヲキニ付近藤領事ヨリ具非禮ヲ責タ
リ

一十二日午前五時又那軍艦威遠蹄下汝昌之ヲ
取レテ帰航ス其帰航ノ主意ヲ馬建忠ノ来訪ニ
就テ聞クニ曰我等ニ在テモ護衛兵無クテハ單
身入京スル能ハス今ノ朝鮮政府ハ專ラ攘夷黨
ノ手ニ歸シ國王ハ幽囚セラレシ景況ナリ是ヲ
以テ我政府ニ在テハ國王ヲ助ケ新任大臣等ヲ
遣ケ且素志ヲ達セシムルヲ目的トシ今之ヲ達
センニハ陸兵ヲ引率セラルベカラス其兵ノ来
着ヲ待テ入京周旋セントスト

一方今政權ヲ得テ大院君ヲ輔佐スル者尤ノ如シ

左議政

宗近洙

宗左議政ハ尤モ頑固黨ニシテ近頃日本人ヲ
謝絶スキ達言ヲ爲セリトアリト云フ

右議政

申應朝

京畿監察使

供祐昌

頑老、人ナリ

領議政

供淳穆

供領議政ハ舊政府ヨリ勅メ續キテ者ニシテ
嘗テ日本ニ来リシ供英植ノ実父ナリ

一十三日二中隊浦物浦ニ上陸幕ヲ布ク午後第三

時會計及分隊ヲシテ仁川府ニ向テ先発セシメ

舍營ノ準備ヲ爲ス杉山少佐一行之ト同行ス

仁川府使ニ府廳借用ノ事ヲ面談スルニ諾々一

トシテ應セラルル也

午後第六時公使一中隊ヲ率ヒ仁川府廳ニ到リ

止宿ス同第十一時兵曹判司趙寧夏同府ニ来リ

公使ニ面会貝言ヲ所テ聽クニ京畿内未ク全ク

平定セス賊等モ于今群集シアルナレハ今使

兵ヲ率ヒテ入京アラハ恐クハ事ノ生セン

ト公使曰兵ハ我政府ヨリ護衛トシテ附セラル、所、者ナルヲ以テ必ス之ヲ引率セリルヲ得ス由ヲ以テ賊黨、蜂起スルヲアラハ貴政府、援助ヲ爲レオ定スルヲ易キ、ニ請フ患、ル勿レト受ニ於テ趙兵當其止ヲ得ナルヲ悟リ十五日、再会ヲ期シ十四日黎明仁川府ヲ奏ヒ歸京ス

一十五日午前才五時一中隊、楊華津ニ向テ先ツ奏進セシム四時三十分楊花津ニ着此日松山少佐同行趙寧夏、再ヒ仁川ニ来ルニ會ス寧夏等曰貴隊、楊花津ニ至ラハ鎮ヨリ大砲ヲ奏スルヲアラウニ計難ニ請フ意ヲ用ヒヨト然ルニ着後、形勢ヲ見ルニ砲セリルノミナラス人民

願ル周旋ス之ニ由テ觀レハ前キニ寧夏、云ヒ
コ者ハ金ヲ虚勢ナリシナリ

一十六日公使一中隊ヲ率ヒ一時三十分着津ニ時
三十分前岸ノ楊花鎮ニ渡ル間ナリ京畿監軍使
供祐昌末会公使ト面談、末四時半同氏先発シ
ヲ歸京ス近藤領事及松宮隊半中隊同行ス六時公
使楊花鎮ヲ発シ八時漢城内南部泥峴(禁營大將手テ
鍾義、部)
ニ搭ス暫クシテ大院君ヨリ一同ヘ夜食ヲ饗セ
ントスルモ辭ヒテ受ケス

右等之事情並ニ我政府ニ送リレ書ニ就テ熟考ス
ルニ談書上一ノ謝意アルヲ見ス互各ノ私闘ト看
做スモノ、加ヒ恐ラクハ我政府ノ要求ヲ甘受ス
ルヲ冀ムベキヲ蓋シ曠日弥久清ノ勢援ヲ待テ事

ラ決セントスル者ノ如シ曠日弥久ハ我ノ得策ニ
非ス必ス急激ノ處分ニ出シサルベカラズ廟議モ
亦既ニ茲ニ外ナリルヘキヲ信ス故ニ公使等モ
亦所見アリテ速ニ入京シテ事ヲ決セント欲シ十
三日軍隊上陸ニ決ス然レ共若シ日ヲ弥ルニ至テ
ハ支那ノ關係ヲ生スルヲ蓋シ疑ヒ勿ルヘシ何者
ハ嘗テ馬建忠ノ言ヲ聞クニ支那政府ニ在テハ平
和ヲ旨トシ國王ヲ助ケ攘夷ノ退リルヲ以テ目
的トスト此ニ由テ觀ヒハ恐ラ彼政府ハ眞屬タル
名義ヲ提出シ此事變ノ仲裁ヲ爲シントスルヤ疑
ヒ勿ルベシ且朝鮮政府ニ在テモ大ニ清政府ニ依
テ事ヲ決セントスル者ニ似タリ迨日來彼政府ヨ
リ屢仁川港碇泊ノ馬建忠ニ來訪スルモ我使ヲ訪

フ、フ、少ナキヲ以テスルモ彼ノ意ヲ察スルニ足ル
ヘシ今清國ノ關係如何ヲ論スルニ先テ日韓ノ談
判整ハサルニ降シ員奏遣スヘキ兵力比較ヲ論じ
併テ彼兵勢ヲ記スルヲ肝要トス

元來彼國全通ノ兵員三万ニ下ラスト雖モ中ニ老
衰幼稚ノ混合セシ者ヲレハ其老幼ヲ全負ノ三分
一ト看倣シ之ヲ除ケハ強壯ナル者二万人トス然
リト雖モ兵制未タ起ラリルヨリ統御スルニ良將
無ク進退スルニ規律無交戦スルニ利害無ク只烏
合魚賴ノ徒ノミナレハ其抵抗力ハ我九一聯隊三
大隊ニモ如カリルベキヲ信ス且彼レノ抵抗力ヲ
一聯隊ト做スモ必ス其全力ヲ一町ニ集合スルヲ
得ス一分ハ邊境其他ノ警戒備ニ充テサルベカラズ

是ヲ以テ若談判破レ戦兵ヲ奏聞スルニ至リハ歩
兵一隊工兵一中隊及山砲一隊アルハ漢城ヲ屠
ルニ十分ナルベシト被存候

然レ共若レ果シテ清國ト關係ヲ生じ其如何ニ由

リハ必ス若干ノ軍兵及軍艦ヲ大同江口

（漢口ハ席ニ支那
商船ノ来往スル所）

ニ派遣シ平壤ヲ占領スルヲ以テ必要ト被存候ノ

ミナラス又関涉之浅深ニ由リ大ニ戦艦軍隊ノ発

開ヲ要スルヲアルベキハ既ニ政府ノ明察スル所

ナラント茲ニ贅セス

右本月八日已来ノ景況五ニ昇見上申候也

清國ハ朝鮮ト從來本属ノ關係アルヲ以テ清國公使

館附ノ將校ニハ朝鮮ニ於テ起リし事情且我軍隊ノ

動静等ヲ報告シ又彼政府ノ意向ヲ探リ至急通報ス

ルノ必用アルヲ以テ曩ニ曾我本部次長ハ北京公使
館附親山少佐ハ電報ニ清國政府ノ意向ヲ探ウシノ
次ニ今月二十一日九月四日淺井副官ヨリ二回尤ノ
詳報ヲ奏セリ

本月三日附ヲ以テ不取敢及御通報置候處尙身節
之次弟詳細ニ義別紙水野歩兵大尉外二名筆記之
通ニ有之則寫及御送附候條御乙覽相成度公使一
行去ル十日島田歩兵二中隊爲護衛同船乗組残
ル二中隊ハ他船ニテ繼テ接錨何レモ仁川府ニ向
テ航行ス且於停地ニ專ニ出師ニ準備ニ着手中ニ
テ熊本鎮台諸兵之内ヲ以テ旅團編制福岡地方ハ
行陣之件及ヒ爲護衛歩兵一大隊輜重兵若干更ニ
出張之件等別紙上裁書賜ニ通ニ有之候右ハ行陣

及公使護衛等之義、假得其真、談判之模様
に依り直に彼地へ出張し、畫策し有之假如前陳粗
準備に相整、只彼地其後之景況報告日夜相待居候
處漸に今朝に至り、氣地步兵中尉より別紙寫し通
電報有之、未だ詳細之義は不相分、假得其右電報之
趣に依り、此般之儀は容易に談判を結局に可相
至、勢尚追々彼地より報知有之候ハ、重に可及御
通報候此段申進候也

朝鮮事件は、去月廿一日付より第二回之御通
報に及、置候末、氣地步兵中尉歸京に付、彼地之狀
況一ト通直聞、悉細ハ同人齎しに歸り、假別紙堀江
歩兵大佐、松山歩兵少佐より、景況報告書寫し、
御表知有之、度最に右報告書及氣地步兵之通話連て去

月十六日迄之義即々公使来々本談判ヲ不開以成
之事ニテ果シテ以往平和之局ヲ結フヘキ者又ハ
不得止開戦ニモ可立至リハ談判ヲ開キ候上ナリ
テハ難相分義ニ付出兵之準備等ハ依然トナリ彼
地ヨリ再應、報告、之日々相待居候處一昨二日
午後伊藤砲兵中尉馬関ヨリ、電報別紙寫、通到
達中尉ハ未タ歸京不致候得共談判之大畧ハ外務
省ヘ到達シタル報知之由ニテ聞リ所ニ據シハ尤
之通

八月廿日花房公使國王殿下ニ謁見シ要求之書
付シ呈シタリ國王ハ諸事領議政之手ニ引渡ス
ヘシト答ヘラレタリ公使ハ此書ニ封スル返書
ヲ三日間猶豫スヘシト申シタリ翌日領議政ノ

書翰来り同人儀新ニ外出ノ命ヲ蒙リタル旨ノ
報知アリ是ヨリ諸事中止シテ談判ヲ開キヘキ
見込ナリ於茲公使一書ヲ國王殿下ニ呈シテ京
城ヲ引上ケタリ跡ヨリ書翰ヲ送り来リ途中ニ
ニ落手シタリ單ニ我カ最後ニ書翰ニ封スル送
書ナリシ公使清物浦ニ達シタル時受ニ一通ニ
書翰来ル書中ニ意ハ京城ヨリ使節来リ本件ヲ
調理シタルト、事ナリ公使ハ彼等ニ来ルヲ待
ツ為メ二日間発船ヲ見合ス可シト返答シタリ
斯ルニ全權大臣リユウゲン(李裕元)副全權大
臣金宏集来着三十日遂ニ再ニ談判ヲ開キ尤
如ク決定シタリ

一朝鮮政府ハ二十日間ニ叛徒ヲ逮捕シ首謀者

ニ嚴罰ヲ加フベシ右審判中我官吏之ニ主令
フ事

一被害者家族ノ生計ヲ扶持スル爲メ五萬圓ヲ
拂フ事

一朝鮮政府ハ朝鮮人ノ爲メニ生レタル損害五
萬圓ヲ賠償スル爲メ我政府ハ五拾萬圓ヲ毎
年拾萬圓ワ、年賦ニテ払フ事

一我カ公使館保護ノ爲メ我兵員ヲ屯駐セリム
ヘシ朝鮮政府ハ兵營ニ建築並修繕ノ費用ヲ
負担スヘシ但レ一々年經過ノ後ハ我公使ノ
見計ヒニ依テ兵員ヲ引払フアルベシ

一朝鮮政府ハ國王ノ書翰ヲ以テ謝罪ノ爲メ特
命之使節ヲ我ニ派スル

一 元山津東萊府仁川府、條約規程ハ今後朝鮮
里教五十里タルハ、且二年、後ハ之ヲ朝鮮
里教一百里ニ擴ムヘシ而シテ一年之後楊華
津ヲ貿易ニ爲メニ開ク事

一 公使領事互具屬員及具家族ハ禮曹朝鮮國
外務省ヨリ

奏スル旅券ヲ携帶スレハ内地ニ旅行スル

自由タルベシ各地方官ハ旅券ヲ検査シ旅人

ヲ護衛スヘシ云々

以上電報ノ大意ヲ抄記シタルニ係ハレハ
委曲ヲ盡サズ又兩訳傳寫レタルモノ故

或ハ粗漏ノ虞モ
免カレサルベシ

前述ニ次第ニテ今般之義ハ全ク局ヲ結ヘリ為邦
家可賀之至右大畧重テ及御通牒也

菊池中尉ハ朝鮮ノ情況報告、爲メ歸朝二十一日馬
関ヨリ奏セシ電報丸、加シ

去ル十六日花房公使護衛兵一中隊半ト共ニ仁川
府ヲ発シ楊花津ヲ経テ南大門ヨリ午後八時異状
ナリ京城内ニ入ル假ニ公使館ヲ京城内南部泥硯
ニ定ム未タ本談判ヲ開カス高島仁禮、西少将ハ
十七日楊花津ニ着翌十八日直ニ入京、苦ナリ下
官十七日午後第二時京城発十八日午後第二時明
治丸ニテ清物浦ヲ接錨只今着明早朝出帆委細ハ
歸京、上上申ス

八月三十日癸酉高島少将ヨリ山縣本部長御用取板宛
、郵報来ル丸、如シ

今般朝鮮國ト談判相整ニ奉日仮條約ニ調印相済
近日花房公使入京ニ苦ニ云々各護衛兵三中隊ヲ入
京為致一中隊ヲ以清物浦及仁川府ニ留メ置右差

引之局ノ堀江大佐並ニ參謀本部局員若干名及計
官尉官等ヲ殘ニ諸事ヲ取扱ニ候拙者ハ隨行佐尉
官並ニ吉澤副監督等ト共ニ後船ヨリ歸朝可致候
間委細ノ義ハ伊藤砲兵中尉迅鯨艦ニ達歸朝局
致候間同人ヨリ上申可致候此段及上申候也
八月三十一日曾我次長又福岡ニ於ル淺田大尉ニ電
報ヲ奏セリ

朝鮮出張ノ者ト本部ト通信ノ局ノ下ノ関ニ滞在
スル同處ハ暑、上ハ宿所明細報スル
同日又淺井副官ハ宮外務書記ニ當リ尤、電報ヲ
奏セリ

孟春艦又ハ明治丸ニテ水野大尉貝地ニ行リニ付
本部ト朝鮮ト通報ノ局ノ淺田大尉ヲ馬関ニ遣リ

以後報告ハ同人、等ニ送ル様出張ノ者一同ハ通
知スヘシ水野ハ御通シアリタシ

又曾我次長ハ國司少將ニ備ニ電報ヲ發セリ

浅田大尉ハ本部ニ用アルニ付馬関迄引揚ル様達
シタリ

九月二日迅鯨艦乗組、伊藤中尉馬関ヨリ本部長御
用取板宛、電報主ル九、如シ

八月三十日清物浦ニ於テ朝鮮國ト談判整ヒ即日
便條約調印相済之事和ノ局ヲ結ヘリ花房公使ハ
護京兵ヲ率ヒ近日更ニ入京ニ當高島少將ハ後便
ニシテ歸朝アルヘシ委細ハ便船ニシテ京上申スヘ
シ

九月四日參謀本部副官ヨリ北京梶山少佐ハ九ノ通

報ヲ為シタリ

朝鮮事件ニ付去月二十一日附ヲ以テ第二回之御
通報ニ及ビ置候末菊池歩兵中尉歸京ニ付彼地之
状況一ト通り直間喜細ハ同人齎リテ歸リ候別紙
堀江歩兵大佐松山歩兵少佐ヨリ、景況報告書寫
ニテ御秉知有之度最モ右報告書又菊池之直詔連
モ去月十六日迄ニ義即々公使未々本談判ヲ不聞
止開戦ニモ可立至リハ談判ヲ開キ候上ナリ子ハ
難相介儀ニ付出兵ニ準備等ハ依然トシテ彼地ヨ
リ再應、報告、之日々相待居候處一昨二日午後
伊藤砲兵中尉馬關ヨリ電報別紙寫、通到達中尉
ハ未々歸京不致候得共談判ニ大畧ハ外務省ハ到
達シタル報告之由ニテ聞リ所ニ據レハ尤モ通

八月二十日花房公使國王殿下ニ謁見シ要求之
書付ヨ呈レタリ國王ハ諸事領議政之手ニ引渡
スヘシト答ヘラレタリ公使ハ此書ニ對スル返
書ヲ三日間猶豫スヘシト申レタリ翌日領議政
ハ書翰来リ令人儀新ニ外出ノ命ヲ蒙リタル旨
ハ報知アリ是ヨリ諸事中止シ又談判ヲ開クハ
キ見込ナレ於茲公使一書ヲ國王殿下ニ呈シテ
京城ヲ引上トタリ跡ヨリ書翰ヲ送り来リ途中
ニテ落手レタリ單ニ我ニ最後ニ書翰ニ對スル
返書ヲリシ公使清物浦ニ達シタル時更ニ一通
之書翰来ル書中ニ意ハ京城ヨリ使節来リ本件
ヲ調理シタレトノ事ナリ公使ハ彼等ニ来ルヲ
待ツ爲メ二日間奏船ヲ見合ス可シト返答レタ

リ

斯、金樞大臣リユウゲン(李裕元)副金樞大臣金宏集来着三十日遂ニ再ヒ談判ヲ開キ尤ノ如リ決定セリ

一朝鮮政府ハ二十日間ニ叛徒ヲ逮捕シ首謀者ニ嚴罰ヲ加フヘシ右審判中我官吏之ニ主会
ヲ事

一被害者家族ノ生計ヲ扶持スル爲メ五島内ヲ拂フ事

一朝鮮政府ハ朝鮮人ニ爲メニ生じタル損害並費用ヲ賠償スル爲メ我政府ハ五拾萬圓ヲ毎年拾萬圓ツ、年賦ニシ拂フ事

一我ハ公使館保護ニ爲メ我兵負ツ屯駐セリ

ハ朝鮮政府ハ兵營之建築至修繕、費用ヲ
負担ス、ハ但シ一ヶ年経過ノ後ハ我公使ノ
見計ヒニ依テ兵費ヲ引拂フコトアル、ハ
一朝鮮政府ハ國王ノ書翰ヲ以テ謝罪之局ノ特
命ニ使節ヲ我ニ派スル

一元山津東萊府仁川府ノ條約規程ハ今後朝鮮
里數五十里タル、ハ且二年ノ後ハ之ヲ朝鮮
里數一百里ニ擴リ、ハ而シテ一年ノ後揚華
津ヲ貿易之局ニ開ク事

一公使領事及貝屬員及貝家族ハ禮曹朝鮮國主
外務省
リ發スル旅券ヲ携帶スレハ内地ニ旅行スル
自由タル、ハ各地方官ハ旅券ヲ検査シ旅
人ヲ護衛ス、ハ云々以上電報ノ大意ヲ抄記
スルニ係ハレハ曲

或ハ盡サス又再詠傳寫レタルモノ故

前述之次第ニテ今般之儀ハ全ク局ヲ結ヘリ為郵
家可賀之至右大畧重テ及御通牒候也

九月四日曾我本部次長ハ馬関ニ於ル淺田大尉ニ
電報ヲ奏セリ

第十四聯隊豫備軍編入、儘二日間野外演習ヲ為
スニ付目撃、局ノ直ニ出張シ演習済歸京スヘシ
通報、フハ外務官吏ヘ依頼シ置クヘシ

今月十六日馬関亮高島少將ヨリ本部宛電報在、如
シ

下官去ル十三日和歌ノ浦丸ニテ出帆本日庸地、
着セリ朝鮮暴徒去ル十二日罪、重キ者四人斬罪
内一名ハ既ニ病死大名流刑ニ處分相成リタリ、

在朝鮮堀江大佐ヨリ十月三日調、人負、本部副官
浅井大佐、九、通り通報シタリ

今般瓦房辦理公使復命ニ爲、歸朝相成候就テハ
高島少將ニ令、因リ公使館護衛トシテ京城ニ
一中隊ヲ駐屯、且、諸物品、守兵ニ充ツル
爲、又、十隊ヲ清物浦ニ分遣シ、餘、三中隊ハ此度
公使、出立ト同時ニ清物浦ヲ発シ、歸朝爲致候ニ
付、該殘留隊、人負、薄五ニ右殘隊外、將校及ビ下士
率、人、名簿相添、此段申進候也

山縣本部長ハ、凡、之通奉仰 允裁候

熊本鎮台步兵第十四聯隊第一第二大隊山砲兵才
大大隊工兵第三大隊才一中隊輜重兵才六才隊五
ニ輜重ヲ以テ旅團ヲ編制シ之ニ各部ヲ附シ福岡

地方、行軍演習爲致置候處朝鮮事件平和ニ歸シ
右旅團ヲ解散シ歸臺爲致度旨奉仰 先裁即日先
可ヲ得テ施行セリソリ

工兵中尉堀本禮造朝鮮語學生池田幸之進岡内格、
三名、朝鮮國京城ニ滞在ニ處本年七月二十三日
彼地ニ於テ逆徒暴挙ニ降戰死候趣ニ有之處未分
確報與之ニ付曾我本部長代理ヨリ大山陸軍卿、協
談ニ陸軍卿ヨリ井上外務卿ニ及照會候處尤、回答
アリ次ニ外務卿代理吉田清成ヨリ大山陸軍卿ニ宛
死者、祭文等ヲ添ヘ戰死、確證トシテ回答アリ

先般朝鮮京城ニ於テ逆徒暴挙、節堀本中尉以下
生死確報、義外務省、問合方御照會、趣ニ依リ
及照會ニ處今般別紙ニ通回答有之候間及御回附
候者右ニテ御承知有之度候也

先般朝鮮京城ニ於テ逆徒暴挙、節堀本中尉並留

學生池田岡内身戰死之由既、所傳來、所右ハ官
報ニ之、之ニ片詳服御領來報來度旨御來示、趣
致柔知候右ハ死房公使報告中敬見候得共公然
ル届書與之ニ片詳細報道候様相達候間相明、次
第可申進候此段一應、回各申進形也

先般朝鮮京城ニ於テ逆徒暴挙、際御省管轄、若
戰死、確報御承知被成度旨本月九日附ヲ以テ御
申越ニ片貝郎死房公使、申遣候處昨廿八日附公
使歸京届出之旨ニ據レハ陸軍中尉堀本禮造諸學
生岡内格池田等之進ニ三名ハ死去ニ相達與之候
依テ諸物浦ニ於テ祭典舉行ニ際文寫添、此段回
各申進候也

祭漢城仁川死難人文

明治十五年九月三日、辦理公使花房義質、以清酌庶
羞之奠、祭七月廿三日漢城死難人、陸軍中尉堀本禮
造、及語學生岡内格、池田平之進、黑澤盛信、巡查川上
堅輔、池田爲吉、本田親友、及仁川死難人、巡查廣戸昌
克、宮鋼太郎、及水島義近、縣通堅、與鈴木金太郎、飯塚
王吉、之靈於仁川港、嗚乎人孰無死、死輕鴻毛、意彼先
徒、如狼如獫、孰敢孰吽、內有主使、惟官弁髦、任其恣睢、
文武遜逃、中尉俊豪、視外如內、訓兵服勞、久駐都監、仗
劍執旄、精明旗幟、維新豹韜、功高異域、酬德虐教、延及
七士、七士切齒、力竭就死、矧彼仁川、禍難牽連、誰曰地
厚、一瞬轉旋、死傷比肩、嗚呼哀哉、民矣通謀、支那是讐、
我皇赫怒、誰任其尤、艤船蔽海、事歸事修、茲收遣
體、厥尾維幽、消物之浦、邦人雪禍、我任辦理、以葬其土、

有滄我淚山長水悠嗚呼良哉尚饗

辦理公使 元房義質

堀本中尉以下改葬之節在場韓官

禮曹仇郎 嚴 錫璫

仁川府使 任 榮鎬

元嶋別將 金 弘臣

祭物單子

屈本 中尉位

餅 庵器

麵 庵器

炙 庵器

牛脯 庵器

食塩 庵器

熟菜

産器

生梨

産器

林橘

産器

氷沙果

産器

生清

産器

清酒

産器

別紙

十二頁

品物数二回以内一品類ヲ減ス

本部副官浅井大佐、陸軍省副官児島大佐、備三丸

・照会ヲ為ス

朝鮮國語學生使岡内格、池田平之進、西名ハ朝鮮

國在留中同國費助之際戦死致候ニ片而者右戦死

・趣同人遺族、御達相成候様致度別紙住可相添

此段及御照会等也

鹿児島縣

鹿児島縣

池田平九郎門長男

池田平之進

愛媛縣

愛媛縣

岡田是花長男

岡田格

八月日欠戰時測量班服務假概刻尤之通制定セラル

第一條 戰時測量班ハ參謀部ニ屬シ參謀長ノ指

揮ヲ受ケ我軍ノ敵國ニ侵入シテ經過セル土地

及ヒ攻畧セル城堡都邑ヲ測量シテ參謀地圖ヲ